



豊玉二中だより

令和3年度 第8号
発行日 12月2日(木)
練馬区立豊玉第二中学校
校長 神山 信次郎

マナーは思いやり

副校長 木原 賢三

10月に新型コロナウイルス感染症拡大防止の緊急事態宣言が解除され、学校の教育活動も徐々に普段通りに行われようとしています。しかしながら、完全に収束したわけではなく、毎朝の検温やマスクの着用等、コロナ感染対策を徹底させながらのアフターコロナの新しい学校生活が始まっています。また、ICT教育の進展により、タブレットを活用した新しい学びもスタートしています。12月に学校評価は行われますが、今年度の成果と課題についてまとめ、来年度、これまで実施されてきた活動が当たり前ではなく、新しい教育の形に合わせて形作っていくことができるようにしていきます。

さて、12月より3年生の面接練習が始まります。緊張した面持ちで、中学校生活で得たこと、将来の目標を堂々と話す3年生の姿は中学校3年間の成長を感じさせます。3年間の教育活動を通して、「自分とはどのような人間なのか」「自分らしく生きるとはどのような生き方なのか」について探求し、自分と真剣に向き合い、自らの生き方を選択した成果です。その中で、印象に残るキラリと光る生徒がいます。入室時に大きな声で「失礼します」「よろしくお願ひします」と言っけきちんとした姿勢で、挨拶ができる生徒です。清々しい元気が良い挨拶ができる生徒は、面接官としても気持ちよく感じます。

人は出会って5秒で印象が決まると言われています。初めの出会いの中で、好印象を与えるためには、「挨拶」「身だしなみ」「表情」「態度」「言葉遣い」が重要です。どんなに立派な内容の回答をしたとしても、挨拶ができていなかったり、姿勢や態度が悪かったりすると、印象は悪くなります。面接において、答える内容も大切ですが、最も大切なのは面接のマナーであり、「思いやり」や「心遣い」をもった行動をすることが大切です。相手の立場に立って、面接の時間が気持ち良いものするためにはどうすれば良いか、考えて行動することが必要です。面接練習では、緊張してしまい、声が小さくなったり、面接官の質問をきちんと聞かずに自分の考えを発言したりする生徒もいます。

「面接官だったら、小さい声だったらどんな印象だろうか」「面接官の質問もよく聞かずに自分の話をしているだけの人をみてどう感じるだろうか」自分が面接官の立場に立って、面接官の方が、その面接の時間が気持ちの良いものにするにはどうすれば良いか、考えてみるこが重要です。「面接のマナー」とは、「相手の立場に立つこと」であり、相手を思いやる気持ちや相手を心地よくさせるという心の在り方が大切だからです。そして、マナーは一朝一夕に身に付くものではなく、日頃からの取り組みが重要です。

本校は気持ちの良い挨拶が伝統の学校で、朝も生徒会役員や生活美化委員が昇降口の前に立ち、挨拶運動を行っています。笑顔で元気な挨拶を聞くと、気持ちの良い1日をスタートさせることができます。みんなが気持ちよく過ごせることができるようにと他人への心遣いや思いやりをもつことができる生徒は、他人からも信頼され、自分自身も心をより豊かにすることができます。

豊二中の教育目標の1つは、豊かな心の育成です。道徳教育を中心に全ての教育活動を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育み、思いやりや心遣いをもった行動をとることができる生徒の育成をめざします。地域いっばいに思いやりと心遣いが広がるように、今後とも保護者、地域の方のご理解とご協力のほどよろしくお願ひいたします。